

## 令和元年度第3回 松戸市子ども・子育て会議録 (要旨)

1. 日時	令和元年 11 月 8 日 (金) 18:30~20:30
2. 場所	新館 7 階 大会議室
3. 出席者	<p>&lt;委員&gt; (50 音順) 18 名          阿部委員、天田委員、石垣委員、石田委員、荻野委員、奥藤委員、神谷委員、久川委員、小松委員、坂委員、坂野委員、千石委員、知久委員、奈賀委員、百田委員、文入委員、松崎委員、山口委員</p> <p>&lt;松戸市&gt;          子ども部長、子育て支援課、子ども家庭相談課、子どもわかもの課、保育課、幼児教育課、健康福祉会館、障害福祉課、指導課、事務局 (子ども政策課)</p>
4. 傍聴者	5 名
5. 次第	<p>1 委嘱状交付式</p> <p>2 会長・副会長 選出・あいさつ</p> <p>3 松戸市子ども・子育て会議</p> <p>(1) ライフサポートファイルについて《報告》</p> <p>(2) 青少年プラザの設置について《報告》</p> <p>(3) 第 2 期松戸市子ども総合計画の素案について《審議》</p> <p>① 第 2 期松戸市子ども総合計画における施策の体系及び重点施策について</p> <p>② 第 2 期松戸市子ども・子育て支援事業計画における量の見込みと確保方策について</p>

### <要旨>

#### 1 委嘱状交付式

○委員に子ども部長より委嘱状を交付。

○子ども部長挨拶

○委員と職員より自己紹介。

#### 2 会長・副会長 選出・あいさつ

○坂野委員が会長に、阿部委員が副会長に選出された。

#### 3 議事

○坂野会長挨拶、阿部副会長挨拶

○会議の成立

(事務局)

総委員数 21 名、18 名出席 (3 名欠席)

「松戸市子ども・子育て会議条例」第 6 条第 2 項の規定により、会議の成立を報告。

○会議の公開

(事務局)

「松戸市情報公開条例第 32 条」の規定により、公開を原則として会議を開催したい。

○議事録の作成と公開

(事務局)

要約による議事録を作成し、公開をしたい。

(坂野会長)

プライバシーに関する部分に充分配慮するものとして、公開することを了承する。

○本日の傍聴の受け入れ

(事務局)

5 名の方からの傍聴の申し出あり。

(坂野会長)

入室を許可する。

(1) ライフサポートファイルについて《報告》

(坂野会長)

議題 1「ライフサポートファイルについて」の報告を担当課からお願いしたい。

(障害福祉課 主事)

「資料 1：ライフサポートファイルについて」をもとに、障害福祉課主事から説明を行った。

ライフサポートファイルの平成 30 年度配布実績や利用者に対して行ったアンケートの結果について報告した。アンケートでの声を今後の事業の充実に活用していく。

(2) 青少年プラザの設置について《報告》

(坂野会長)

議題 2「青少年プラザの設置について」の報告を担当課からお願いしたい。

(子どもわかもの課 課長)

「資料 2：青少年プラザの設置について」をもとに、子どもわかもの課長から説明を行った。

東松戸駅前の用地に複合施設の設置を検討しており、開設時期については現在調整中であり、順次お示しできればと思っている。

### (3) 第2期松戸市子ども総合計画の素案について《審議》

#### ① 第2期松戸市子ども総合計画における施策の体系及び重点施策について

(坂野会長)

議題3「第2期松戸市子ども総合計画の素案について」のうち「①第2期松戸市子ども総合計画における施策の体系及び重点施策について」担当課から説明をお願いしたい。

(子ども政策課 課長)

資料3「第2期松戸市子ども総合計画・素案（概要版）」、資料5-1「前回の会議で提示した施策の体系（案）と現時点の施策の体系（案）の比較」、資料5-2「前回の会議で提示した施策の体系（案）に対する意見」について、子ども政策課長から説明を行った。

(坂野会長)

質疑応答をお願いしたい。

(山口委員)

施策9-1「安全対策・防犯対策・安全対策を強化する」、9-2「親子が安心して外出できる環境を整備する」のように、台風などの際に親子が安心して自宅で待機できる避難のかたちがあたらよと思う。また、先日テレビである親子が避難所に子ども5、6人を連れて避難したところ、うるさいと出されてしまったというのを見た。私は幼稚園、保育園など多くの子どもを避難場所に連れて行かなければならない。子どもがいるところ、反対にご年配の方や病人の方がいるところと様々だが、避難場所に入ったときお互いに迷惑のかからないように整備されるとよと思う。地域の方の協力も必要だと思うが、考えていただきたい。

(子ども政策課長)

近年の災害状況を見ると、防災対応は施設ごとの対応も含めて検討していかなければならないと考えている。避難経路、避難場所の問題については、子ども総合計画の範囲だけでなく、市全体の防災の計画の中でも検討していかなければならないので、所管課に伝え、今後検討していきたい。

(天田委員)

保育所などの身近なところで市民からの小さな声を吸い上げてくれる場が欲しい。バリアフリー化によって段差をなくすことが、目の見えない方にとっては車道と歩道の境が分かりづらくなることもある。一方を優先すると一方からは不満になるということもあるので、色々な意見を吸い上げてほしい。

(石垣委員)

母親が安心して子どもを産んで育てられる仕組みをつくってほしい。産後うつやワンオペ育児等の支援に対し、使いやすい制度や仕組みをつくってほしいと思う。

(石田委員)

松戸市は、子育ての施策や計画が他の県の市と比べるとしっかりしてすばらしいが、今度は中身に対する評価があ

つたらよいと思う。

また、施策 6-4「家族が協力して」とあるが、「家族」というのは、様々な家族があるところをしっかりと考えてほしい。最近相談を受けるなかで、ちょっとしたことで離婚するということが増えてきたと思う。現在は協力的な父親が多く、夫婦も男女共同参画のようにできないかと考えている。

もう一つ、虐待の予防について、おやこ D E 広場で子育てコーディネーターに取り組む中で、一步間違ったら虐待になりそうな家庭がたくさんあり、虐待の支援について「予防」という視点を持ってほしい。

(荻野委員)

ライフサポートファイルについて、最近「ふれあい 22」では外国籍の親子をよく見かけるようになった。今後、外国籍のお子さんがライフサポートファイルを利用できたら、ステージが変わるごとに説明がより楽になると思うので、検討してもらいたい。

(障害福祉課 主事)

ご意見は、松戸市地域自立支援協議会こども部会に持ち帰り、検討させていただきたく。

(奥藤委員)

基本理念「子ども力につながる未来」は、子どもがこれから将来を支える、松戸市を支える子どもに育っていくという意味でよいと思った。

施策 1-3「幼稚園・保育所（園）・小学校との連携」で、現在幼稚園・保育所・小学校を結びつける活動をいくつか行っている。たとえば本校では、幼稚園の子どもたちが小学校に来て給食を食べる体験や図書室・体育館を使う体験をし、小学校に上がるスムーズなつながりづくりに取り組んでいる。また保育所とのつながりとしては、小学校で育てた花を持って行くという活動を行っている。このようなことが松戸市の様々な地区で進められることで、つながりが深まり、子どもの力がつながっていくのではないかと強く思っている。

また、基本施策 12「子どもと子育て家庭を地域全体で応援する」は、とても大切と思う。学校だけではできないことは、地域の力を借りて、民生委員や放課後児童クラブ等色々な方と結びついて情報交換をすることが必要と思っている。

(神谷委員)

避難所の問題やライフサポートファイル、青少年プラザにしても、子どもたちにとってこの施策の一番のポイントは持続可能な切れ目のない支援だと思う。SDGs までとは言わないが、松戸市がそういったものを目指しているのであれば、いずれも子ども部だけでできる話ではないはずである。

ライフサポートファイルにしても、これをどう活かしていくのか関係部局が理解していなければならない。避難所にしても、地域組織との連携がなければ、避難所での子どもの問題が非常に大きくなる。東日本大震災のときに避難所の支援に行ったが、子どもたちがお年寄りをサポートしている施設と、子どもが邪魔者扱いされている施設と両極端であった。これはどういった連携をとるか、示しているかの違いだと思う。青少年プラザに関しても、図書館と併存するというのが、子どもたちがわいわいする青少年プラザと、従来の静かにすべき図書館がうまく併存できない可能性がある。こういったことは各部局をこえて議論する場をつくっていただくことが、非常に重要だと思う。

松戸市は子どもの課題への対応が進んでおり、誇るべきことである。行政サイドも子どもを中心として、つながっていくということをお願いしたい。

(子ども政策課長)

S D G s の、持続可能であるということや誰も取り残さないという考えは、今までの子ども総合計画にも十分に活かされていると感じている。S D G s の表記を今回の計画に反映させられるかは、今後市役所としての方針決定を待って、検討していきたい。

また、複合施設に関しても、関係所属が参画して、議論し、音の問題も、配慮した計画を策定している。当然子ども部だけで解決できない問題は非常に多くあるので、横の連携を重視して進めていきたい。

(久川委員)

色々聞いて思ったのは、スピード感が必要だということである。子育てをするなかで幅広い年代のお子さんを持つ子育て世代と交流しており、様々なニーズや、不満、悩みを聞かすが、それらは一年経つと変わってしまう。そのため、天田委員のご意見にもあったような、小さな声をくみ取って、それを速やかに実行できるような施策があるとよい。すぐに解決できる姿勢が見えると、嬉しく心強く感じる。

(小松委員)

基本施策 8「社会的支援が必要な家庭を支援する」の中で、障害者に対する医療の充実が必要だと感じる。高齢出産の増加によって、以前よりも障害を持ったお子さんが増えてきている。障害児の医療は、専門性が求められる一般の先生にはなかなか難しいものがあり、障害にかかわる医療の充実が今後必要であると考えている。また、歯科に関しても、松戸市内で障害児治療ができるのは日本大学歯学部と開業医では 1 軒だけで、開業医の先生はだいぶ高齢になってきている。障害児を専門とする先生が出てこないという現状があり、そのような施設が必要であると考えている。

先程奥藤委員より、幼稚園・保育園・小学校の連携を推進するとのお話があったが、松戸市の幼稚園・保育園では以前よりフッ化物洗口に協力していただいております。今年に入り 55 施設 3,000 人の子どもたちのフッ化物洗口を行っている。できればこの流れを止めずに、小学校でもフッ化物洗口を行って、広げていきたいため協力を仰ぎたい。

(坂委員)

子ども会の加入率が年々低下してきている。昔の松戸市では子ども会の加入率が 60% 台のときもあったが、現在では加入率は 14% 台まで下がってきている。子ども会は、学校とは違った縦のつながりがある。防犯も含めて、地域の方々と一緒になって活性化できればということで活動をしているが、加入しないという保護者の意見も多く、なかなか厳しい状況である。

基本施策 10「子どもが地域でいきいきと成長できる」や基本施策 12「子どもと子育て家庭を地域全体で応援する」で、何か子ども会に対しても色々なかたちで情報を公開して、もっと地域を活性化していく意味で今後も協力していきたい。

(千石委員)

施策 4-4「外国籍の子どもへの支援を充実させる」や施策 8-3「外国籍の家庭への支援を推進する」とあるが、実際の問題として松戸市は 1 万 7 千人ぐらいの外国籍の方がいて、増えている。子どものほうが日本語を覚えるのが早い。ただし、親が日本語を話せないため、学校であったことが親に伝わらない。子どもたちは家では母国語、学校では日本語を話しており、日本語は話せるが意味をしっかりと理解できていない子どもが増えている。結果、受験がしにくいということが起きている。こうした子どものサポートをどうしていくのかという取組みを、N P O 団体の活動で行ってい

る。

外国籍の方も松戸市に入ってきたら、松戸市民である。そのため、松戸市全体の施策の中にも、多言語ということ意識するべきである。日本でどうやったら生活していけるのか、あらゆる部署が協力して、サポートしていかなければならない。例えばごみ捨て一つとっても、ごみの分別とは何か等、一つひとつ伝えていける仕組みを考えていく必要があると思っている。色々な面で、みんなが子どもを見ていくことが必要である。

#### (知久委員)

働く保護者が増えたことで、1・2歳児の子どもの保育を希望する方が増えており、松戸市では0～2歳児を中心に預かる小規模保育施設を増やしている。待機児童の解消は大事だが、どこの園でも保育士不足が課題である。松戸市としても、保育士確保のために色々な施策を行っている。最近は保育士の虐待等の報道も目にするため、質も高めていかなければならない。そのためにベテランの保育士が若い保育士を育てていく関係をつくっていくと、市と協力して取り組んでいる。

先程の山口委員の意見にもあったが、年々災害も大型化している。子どもの安全を最優先にする保育園の立場からすると、災害の状況を把握し保育園が子どもたちの安全をどのように守っていくかという点について、市と一緒に取り組んでいかななくてはならない。

松戸歯科医師会のフッ化物洗口によって、子どもたちのむし歯予防に効果が出ていると聞いている。新しくよいものは、積極的に取り入れていかなければならない。

幼保小連携については、保育園側と小学校側でお互いにどのような生活をしているのか、見学も含めて幼稚園や小学校と連携していけるとよい。「子ども力でつなげる未来」を紐解くと、「家庭の力」をつけていくためには、「地域の力」が大事だと思う。「子ども力」だけではなく、地域とのつながりがあってはじめて、未来につながっていくと感じる。

#### (奈賀委員)

中高生の居場所づくりについて、松戸市でも整備を進めているが、周知が難しく、不登校を経験した子どもからすれば、居場所へ出ていくことも大変で中学生・高校生となると、誰がどのようにサポートしていくかが大事になる。

また、どこまでが若者かということをいつも考えるが、漏れるところを救っていかなければならない。どこにも居場所がない子どもや不安を感じる保護者を救える施策が充実していくため、サポートできる人材が松戸市に増えていくとよい。

#### (百田委員)

「子ども力」をもう少し具体的な言葉、事業を行う上での行動の指針にしていけないか。「子ども力」というと、私は「子どもの権利」を思い描く。「子どもの権利」で一番大切なのは、自由と失敗する権利である。支援者は支えを必要とする子どもを必ずキャッチして、その子どもの力を信じて自立を応援していくのが、一番大事なところである。

計画では、つい目先のメニューの足りなさに目が行きがちになってしまいがちではあるが、子どもが制度の枠の中だけで過ごすのはよくない。スピード感も大事だとは思いますが、子どもはその子どもなりの段階を経て成長していくものである。どれだけ慌てないで、じっくり、着実に、あきらめずに、繰り返し支援ができるかということを職員や保護者の方にも伝えられている。

基本施策1-3「幼稚園・保育所（園）・小学校との連携を推進する」の中に、放課後児童クラブも視野に入れていただきたい。実態としては、保育所（園）、幼稚園、小学校から情報の共有・連携はしており、特に保育所（園）の生活の場面を引き継ぐのは放課後児童クラブであるため、連携を仕組みをつくってほしいと切に願う。

また、先日の大嵐では、土曜日だったため就労している方を意識して、45クラブ中4クラブが開設をした。平日で

あれば小学校の判断に準じ、開設はされない。放課後児童クラブの支援は、幼稚園・保育所に準じた支援をするのか、それとも小学校の判断に準じるのか、すみ分けていく必要がある。

子ども・子育て支援事業計画は放課後児童クラブは平成 27 年度から、支援の単位としてクラス単位での運営をしており、現在 100 前後の単位で運営をしている。今後は、クラス数も併記することを提案したい。また一日当たりの登録人数と年間の利用人数が書いてあるとわかりやすい。

またどの世代の子どもがどれぐらいの割合で利用しているかの表記も必要かと思う。放課後児童クラブは、法人運営になった平成 15 年は全小学生児童数の 6.79%が利用しており、1～3 年生が 10%強、4～6 年生が 3%であった。平成 31 年は全体で 18.75%、1～3 年生が 30%、4～6 年生が 7.6%である。必要性が高まっていることは、割合で表記した方が、理解が進みやすい。

(文入委員)

「地域の力」に、町会・自治会は重要である。松戸市が行政の色々な施策を展開する中で、町会・自治会が非常に力を得て実施していることは事実であり、防災についての大きな基盤であることを、ご理解いただきたい。

社会福祉協議会についてだが、松戸市内には 15 の地区社会福祉協議会があり、15 地区のうち 13 地区でふれあい広場として子どもから高齢者までが自由に参加できる場をつくっている。子どもたち、高齢者、障害のある方が、様々なパフォーマンスができるブースを展開して、多世代が集う場にもなっている。

また、子ども食堂については貧困家庭だけを対象としたものではなく、あらゆる子どもたちがそこに集い、大人も子どもも交流しながら、ひとときを過ごしている。そして、それを支持する方たちがどんどん増えていることを、心強く思う。松戸市社会福祉協議会としても、参画する人・団体を巻き込んで進めていきたい。

(松崎委員)

民生委員・児童委員は支援やサービスをつなげる役は行っているが、使ってみてどうだったかというところまでは確認していないので、フィードバックを行うのであればお役に立てるのではないかと感じた。また、複合施設において、もしできるのであれば防災教育を学べる、体験できるところにもなればよいのではないかと思った。たまたま矢切の支援学校を見学したところ、そこは気象庁と連携をして、気象学や天気学を主体的に興味を持って勉強しているのが印象的であった。

### (3) 第 2 期松戸市子ども総合計画の素案について《審議》

#### ②第 2 期松戸市子ども・子育て支援事業計画における量の見込みと確保方策について

(坂野会長)

議題 3「第 2 期松戸市子ども総合計画の素案について」のうち「②第 2 期松戸市子ども・子育て支援事業計画における量の見込みと確保方策について」担当課から説明をお願いしたい。

(子ども政策課長) (保育課長) (子育て支援課長)

資料 3「第 2 期松戸市子ども総合計画・素案(概要版)」について、子ども政策課長、保育課長、子育て支援課長から説明を行った。

(坂野会長)

①「第2期松戸市子ども総合計画における施策の体系及び重点施策について」及び②「第2期松戸市子ども・子育て支援事業計画における量の見込みと確保方策について」、阿部副会長からまとめをお願いしたい。

(阿部副会長)

現場でご苦労いただいている委員の皆様から生の声を聞いた。実態は、多様で複雑で、非常に困難な課題を抱えているということを改めて確認できた。そういう課題を抱えながらも、今回の計画が推進されるが、量だけでなく質の問題は、今後もずっと我々が検討していかなければいけない課題であり、困難なだけに、今後も様々な議論が展開されるはずだが、どこまで解決されて、何が残されたかは、しっかりまとめていくことが必要になる。やはり継続こそ力なので、引き続き、お願いしたい。

(坂野会長)

本日提示された素案をベースに、今回いただいた意見を事務局に取りまとめていただき、今後パブリックコメントにかけ、進めていくということだがよろしいか。

<異議なし>

(坂野会長)

異議なしとのことなので、事務局にて会議で出た意見を集約し、パブリックコメントの素案策定をしていただきたい。

(事務局)

○次回会議の開催

次回の会議については2月上旬から2月中旬の開催を予定している。